

る路線、国道の代りになるような主要路線についても補助対象の規程を拡げ、市町村道の整備を促進することになった。

九州縦貫自動車道の建設着手

かねて一八〇万県民の夢として推進してきた九州縦貫自動車道の建設が、本年七月二五日、福岡―熊本間整備計画決定を契機として、いよいよ着工される運びとなった。

日本道路公団に於ては、整備計画決定後直ちに路線説明、立入踏査を行ない、引き続いて、九月一六日から全線に亘って中心線杭打を実施し、現在、県、市町村、関係部落等地元に対して設計協議を行なっているところである。そして、幅杭打および境界線測量を実施した後、一月早々には用地交渉が行なわれる予定となっている。

本県に於てはさき三九年一〇月九州横断道路の建設が行なわれ、更に最近に於ては本年九月天草五橋の完成を見、今や兩者とも全国的にパークロードとして絶大な注目を浴びているが、更に九州縦貫自動車道が着工されることとなり、今後本県の地域開発推進への大きなエネルギー源として、県民の振興意識の向上に偉大な力を与えるものと考えられる。

また、本県の地域開発推進上、高速道路の与える役割は絶大なものがあり、そ

本県下では四一年度一億一、二〇〇万円の事業費で整備が行われる。以上道路予算の伸びと相俟って道路の整備はすすんでいる。

のうち、二、三の事項をとりあげて見よう。

先づ第一に、大消費地との時間的、経済的距離が著しく短縮され、産業の立地条件が大幅に改善されることである。

従来九州中南部地域は、大消費地との距離の遠隔性と、道路交通通信等諸施設の未整備により、工業立地の促進に大きな障害となっていた。

しかし、高速自動車道完成のあかつきには、大消費地との時間的距離が大幅に短縮され、熊本市から福岡市までは一時間、北九州市までは一時間三〇分、大阪までは八時間となるほか、東京までは一四時間で連絡することができるとなり、大消費地との時間的距離が大きく短縮され、産業の立地条件が大幅に改善されることとなる。

第二に、農林水産資源をはじめ、観光資源の開発が大幅に促進されることである。

高速道路による輸送は、輸送時間が短縮されるばかりでなく、高規格の道路であるため、荷損みが殆んどなく、しかも輸送時間が常に一定している事に特色を

の中心地となり、更に一層の発展が期待されることである。

熊本は地理的に九州の中央部に位置し、目下九州における中核都市として発展するため各種基礎条件の整備に努めているところである。

高速道路の建設により輸送時間は従来のはから大幅に短縮され、熊本市から福岡市、北九州市、鹿児島市および宮崎市まではそれぞれ一時間―一時間三〇

大型空港の必要性

本県は立地的には九州の中央に位置し九州縦貫高速道路、および九州横断道路の結節点であって、九州各県の主要都市とは一―二時間で結ぶ交通の要衝にあたり、本県に大型空港ができた場合、九州の新たな空の拠点として、国内先進地域はもとより、中国、東南アジアに対する玄関空港として、産業、文化の交流促進に貢献することがきわめて大きく、九州における中核都市としての重要な機能を果たすものと考えられる。と同時に熊本―東京、熊本―大阪の結びつきが密接となり、人の交流がひんぱんになつて東京、大阪の経営者がかんとんに熊本にやってくることができ、企業の進出も容易になつてくる。

又観光面においても、九州を訪れる観



蚕業試験場の新築と九州蚕糸共進会

蚕糸界が長らく待望した熊本県蚕業試験場の新築移転は、昨年七月地元の絶大な御協力と、関係各方面の御支援により、国立蚕糸試験場九州支場と相隣接して、日出度く鹿本郡植木町岩野に移転を完了し、名実ともに蚕糸技術のセンターとして発足した。

県蚕業試験場は明治四四年原蚕種製造所として創設（大正九年水前寺木町に移転）以来五〇有余年、幾多の研究業績は業界に非常に高く評価されて今日に至ったが、新試験場は植木町の岩野に移転し、国道三号線沿いに敷地九、一畝の中に、最新鋭の設備を誇る三〇棟の研究室、附属建物、五畝の桑園があり、東側に接する一二畝の九州支場と

ともに面目を一新して、全国初のケースとして国の基礎研究に対する実証的応用研究と、その性格に基き提携した今後の試験研究の画期的成果が、大いに期待されることである。

また同時に設置された蚕業研究センターは、常時五〇名の宿泊施設、研修室、娯楽室等をそなえ、これにより快適な環境のもとに、蚕業中堅青年、蚕業指導者等の求めに応じ、常時研修可能な体制が生れたことは大きな特徴である。

熊本県では、両試験場の移転落成を記念して、蚕糸振興協力会と共催により、九州各県の協賛のもと、「九州蚕糸共進会」を一月二二日から三日間にわたり盛大に挙行政した。

共進会は大日本蚕糸会総裁高松宮殿下のご出席のもとに、盛會裡に終始した。三日間の入場者は、広く九州各県を含め一萬二、〇〇〇名に及び、場内各施設を利用した各種展示、資料館、華麗な絹製品の展示、即売会、場内仮設舞台によるアトラクション等々文字どおり蚕糸の一大祭典となった。

今日熊本県を中核とする九州の養蚕は、着実な発展途上であり、全国的視野において将来ともますます強くその安定成長が期待されるとき、蚕業試験場の移転落成は非常に重大な意義をもつものであり、またこれを記念した九州蚕糸共進会はそのまゝ「明日への希望の象徴」となり、養蚕の新时代への輝かしい第一歩となったのである

大型空港設置の気運動

分以内となり熊本はまことに九州の中心となるわけで今後一層の発展が期待されるのである。

今後九州縦貫道路を県内開発の一大軸とし、また各インターチェンジを沿線地域開発の拠点とした地域開発計画を樹立し、各種関連道路の整備をはじめ、土地改良事業等附帯事業を積極的に推進し、効率ある高速自動車道の建設を図りたいと考えている。

光客数は昭和三九年度で六〇〇万人（うち外国人一七万人）をこえ、特に本県は「阿蘇」をはじめとして先般完成を見た「天草五橋」等多くの観光資源に恵まれS字型国際観光ルートを中心でもあり、観光立地の面からも優位性をもっているものである。このような九州の観光、本県の観光面に大型空港建設は多大な影響を与えることは言を俟たない。

現熊本空港の拡張はむり

今後、より大型化、高速化が予想される航空界の動きに対応するため、航空保安施設の整備された近代空港が必要となつてきた。即ち無線誘導装置、地上誘導装置等の近代的設備を備えることが要請されている。

そのためには、少くとも幅三〇〇呎、長さ三、一二〇呎の着陸帯が必要である



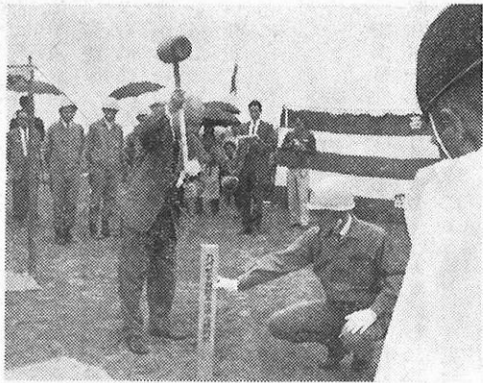
右・乗降客がふえてきた熊本空港上・九州縦貫自動車道の杭打式

が、現空港の着陸帯は幅八〇呎、長さ一、三二〇呎である。

現在の空港に近代的航空保安施設を持つるよう拡張整備することは戸島山、小山、竜田山等が航空法の制限にふれるなど地形上の問題、及び周辺の市街地化等によって極めて困難である。

熊本県にぜひとも大型空港を

しかしながら本県百年の計を考え、すみやかに後進性を脱却するためには、どうしても大型空港の建設が必要である。このため本県は新しい空港の候補地として長州地先、不知火干拓、花房台地、黒石原等を調査したが、空港としては技術



最後に、熊本は九州における交通運輸